

第3回平取高校と地域の未来を考えるワークショップ 開催報告

開催日：2023年10月17日（火） 18:30-20:30

場 所：ふれあいセンターびらとり 多目的会議室

参加者：91名

主 催：平取町／平取高校の魅力化を図り存続させる会

講 師：NPO 法人きたのわ 宮本奏氏 / サポート 遠藤千尋氏

1. 当日のタイムスケジュール

時 間	内 容
18:30	1. オリエンテーション ①あいさつ・進行役紹介 ②主催者挨拶（教育長） ③本日の流れ ④アイスブレイク
18:50	2. 話題提供：まちづくり課より ①平取町の人口減少の現状について ・人口減少/人口構成の変化から考えられる課題 ②平取高校といまとこれから ・町民アンケート結果の共有 ・文科省や北海道教育委員会が高校が課題解決、地域を向いていくことや、平取高校もスクールポリシー・ミッションがあり、地域との連携があることなどについて話題提供
19:05	3. ワールドカフェ ラウンド1 問い「ここまで話を聞いて、あなた自身やあなたの周りの人たちに起こっていることで、思い出したこと、気になっていることはありますか？」
19:20	移動（グループ変更）
19:25	4. 話題提供：まちづくり課 ①進行役からまちづくり課へ問いかけ「(グループでわからない質問が出ていたらそれを質問する)」 ②進行役からまちづくり課へ問いかけ ・隠岐島前高校の事例、偏差値は関係ない高校の変化、小規模校の優位になってきている ・過疎地域の小規模高校（総務省）の価値の転換、まちづくりとしてもチャンスがある ③ここで前回でてきた意見を振り返る
19:35	5. ワールドカフェ ラウンド2 問い「まちにとって、私たちにとって、高校はどんな存在だと思いますか？」
19:55	移動（元のグループに戻る）
20:00	6. 全体共有 ①「まちにとって、私たちにとって、高校はどんな存在だと思いますか？」 ②「これからまちと高校のことを一緒に考えていくときに、もっと知りたいこと、学んでみたいことは何ですか？」 を各自、紙に書いてもらう ・グループ内で共有し、その後全体発表
20:15	7. クロージング

2. 全体共有の時間内にグループで発表した内容

① まちにとって、私たちにとって、高校はどんな存在ですか？

【地元(大人や子ども達)にとって大切な存在】

- 地元にあると安心する場所
- まちにとっては子どもを町内に居てもらえる存在
- 私たちにとっては子どもを教育して人間関係や社会性を学ばせてほしいところ
- 親にとってありがたい学校
- 子ども達私たちにとっても大切な場所、存在（具体的にはわかりませんが）
- 大事な学び場
- 町にとって重要（人材）なもの
- 親にも子どもにも平高は必要
- 子ども、学校を通じて大人も協力し合える
- 子供達にも同じ高校へ行ってもらいたい。子供との話題づくりになる。高校がなくなってからだと一度閉校してからだと戻せなくなる。人数が減ってもないとダメ
- まちの若者たちの教養の場所

【高校生にとって大切な存在】

- 高校は自身の夢を決める場所。夢への第一歩となる場所。夢を叶えるために努力できる場所
- 10代後半の一番大切な時を過ごす場（学ぶ場）
- 知識を習得することができる
- 自分を知れる
- 人として成長できる場。自分の将来について考えられる
- 人とコミュニケーションが取れる場所。自分の能力を活かせる場所
- 新たな出会いの場
- 精神的（心）のバックボーン
- 青春が思いっきり楽しめる高校

【なくなると困る存在(経済的理由など)】

- 自分で通える唯一の高校。なくなってほしくはない
- 地方に出すにはお金がかかるので高校は平取にあってほしい
- すべての家庭が経済的に恵まれているわけではないので、これからの子ども達のためにも卒業した子ども達のためにも大切な学校です。なくなると寂しい
- 平取がもっともっと住みやすく平取の人間が幸福になる為に一緒に考え、力を合わせてくれる仲間なので、なくなるとは困る
- なくなったら困る存在
- なくなってから必要性がわかるもの
- 家計の助けになる（町外行くより安い、時間短）
- 子供が安心して通える環境、もう少し人数多いといい

【残すべき存在】

- 地元に残しておかなければならない学校です
- 残したいもの
- せっかく存在しているのだから、これからも存続に向けて大切にすること
- 高校がなければ町がとてもさびしくなると思います。なんとか残したいです
- 残さなくてはいけない存在

【当たり前な存在】

- 現状では可もなく不可もないが特色を出せる可能性はある（地域のポテンシャルは高い）
- 今までは高校はあって当たり前だと思ってました。今は平取町の希望「ミライ」を左右する
- あたりまえ
- 親子にとってあって当たり前で必要だと思う
- まちに「常にある」存在

【活気・元気のある存在】

- 活気があるように思います
- 発想力
- 活力
- まちにとって高校の存在は太陽のようなものです
- 平取町を活気づける存在
- 活気あふれる存在
- 元気と新たな視点をくれる存在
- 活気ある若者の城！であってほしい
- 若い力
- 活気ある元気な高校がある町は、地域も元気にさせる
- 町にとっては一番活気ある場所（人数等）
- 高校（生）はまちの元気
- 町の活性化、若者増
- 若者がいて町に活気をもたらす存在

【地域の未来にとっても必要な存在】

- 地域の未来そのもの
- 平取高校は地域とのまちづくりPRにかかせない場所
- 小規模校だからこそ地域と気軽に関われる存在
- 希望の星。地域存続の大切なパートナー
- まちづくりと高校魅力化のキーワードは同じ「Re-Design 北海道 in 平取」キーワードは、エネルギー（バイオマス）／IT-AI（DX）／観光文化（先住民族アイヌ）／食（トマト、米）
- 「自慢の学校」であって欲しい。まず町全体への愛着がわくよう町のアピールや取り組みを増やせば変わっていくのでは？学校はあくまで枝葉の一つ、幹が「町」
- 未来の町や日本を創る存在。背水の陣

【高校そのものの大切さ】

- 高等教育機関として大切な教育機関である
- 町の学問拠点
- 夢や希望や人生のあるべき姿を示してくれる羅針盤
- いろいろと学べる場所
- 夢を実現させるための大切な通り道
- 子供から大人へ大きく変わる時であり、悩みなども増えてくる。特に高校を出た後に自分がどうなるのかの分岐点であるので、将来像をはっきりと持てるようにならなければならない場だと思います
- 高校とは学生時代で一番楽しくなきゃいけない場所（時間）
- 高校生の活躍、活躍できる場づくり

【人と人をつなぐ存在】

- 人と人をつなぐ HUB のような存在であり、そういう役割を担っていくべきと思う

【町民から見える平取高校の存在】

- 平取町の顔
- 子どもが3人卒業してやっぱりここを卒業してくれたことが今思うと良かった
- 子どもにとってはあまり魅力的ではないと思う
- 足枷
- 今の高校は地域に溶け込んでいないかな
- 高校生の人数が少ないから地域の行事に参加しているのを見ないような気がします
- 平取高校からの進学先も結構な有名校がある
- 希望
- 今のところあまり存在価値が見つからない。そこが見つからないから子供達も離れていくのでは？
- 若い人が活躍できる場所。授業、学祭など見てみたいと思わせる場所

【町外から見える平取高校の存在】

- 私にとっては異動先。町にとってコンセンサスはないな…

【将来への希望や期待】

- 子供の未来の選択肢となるような面白い学びを提供してくれる（海外留学など）
- 人（町内と町外、海外、全国）の交流拠点とすべき

【具体的なアイデア・要望等】

- 高校生視点から町のPR、町のことを発信してほしい
- 平取町の最上級学校
- 特に平取高校は普通のことをやっても生徒は集まりません
- 何事にも“やる気”を持って取り組む段階と思う

- 都会に行きたい子は減っている。ネット環境と仕事があることが大事
- 職場体験の機会を増やしてほしい
- なぜ高校があるのかを町全体で考える必要がある
- 小中学校よりも主体的に地域に関わることができそう

② これからまちと高校のことを一緒に考えていくときに、もっと知りたいこと・学んでみたいことはなんですか？

【平取高校生に聞いてみたい】

- 今の平高生は楽しんでいるのかな？
- 今の若い人たちの考え、どんなことに興味を持っているのか？
- 生徒がなにを望んでいるのか
- 生徒の楽しみが知りたい、一緒に遊んでみたい
- 高校生が町に何があれば就職しようと思えるか知りたい
- 平取高校の子たちが、平取町（と大人達）のことをどう感じていますか？それを基に施策を考えたらいいかとも思います
- 高校生に平高をどう思っているのか聞きたい。平高以外に通学する高校生（保護者）にも聞いてみたい。
- 子ども達はどんな学校に通いたい？
- 今の学校がどんなふうになったら楽しい？
- どんな地域になったら残りたい？
- 高校生の考え、希望が知りたい
- 今の若い人たちの考え、どんなことに興味を持っているのか？
- 生徒の声をたくさん聞きたい
- 将来の夢や実際に挑戦（チャレンジ）してみたいこと（進路、就職）
- 高校生はどんな学びをしたいのか？
- 現場の高校生の声
- なぜ平高に行きたいのか？
- 平取という町に住んでどんな感想をもっているのか…心配なこと、不安なこと、得しているなどと思うことなど…若い子たちの本音を聞きたい
- 平高の良いところ

【平取高校の卒業生に聞いてみたい】

- 平取高校でしかできないことを卒業生の声が聞きたい
- どうして戻らないのか？卒業生に聞いてみたい
- 高校を卒業した後のこと

【平取高校の先生に聞いてみたい】

- 先生などの意識、職員の声

【平取高校に聞いてみたい】

- 高校での取り組みが知りたい（現在高校との関わりがあまりないので）
- まちと高校が一に求めているものを知りたい
- いろんな要望があった時の高校としてどのくらい対応可能なのか
- どういうプロセスで平取高校魅力化カリキュラムは決まっていくの？
- 高校の現場の声
- 高校の授業単位の認定のあり方についてもっと知りたい（職業体験が単位に認められる？短期留学等）
- 全国募集どんな PR をしているのか？
- 今の平高生と学校の実情、意識、今の平高の魅力→これからの魅力
- 留学生の居住場所（ホームステイ？寮？一人暮らし？）

【中学生またはその保護者に聞いてみたい】

- 中学生、進学する子たちが求めていること
- 平高が嫌なのはどうしてだろう？不安に思っていることは？
- 中学生が行きたくなる高校を知りたい（親ではなく本人）、中学生一人一人に聞きたい
- これからの中3（現小5～中3）の進路先の希望と親の希望
- なぜ平取高校以外に行きたいのか、どんな学校なら行きたいと思うのか、現中学生&保護者にアンケートをとって事実と向き合う→アイヌのこと、町の人がどれだけ詳しく知っているのか？

【平取町役場・教育委員会に聞いてみたい】

- 高校、町を残していくためには相当突き抜けたことができないと難しいと思います、どこまでの覚悟がありますか？
- 町、教育委員会がどう考えているのか
- 町からの支援「金」「予算」

【北海道や国に聞いてみたい】

- 町や学校だけではなく道や文科省(文化庁)も考えるべきこと

【魅力化等に関わる他地域の事例について知りたい】

- 他の学校の成功事例、取り組み
- 他地域の事例。特に残念な…
- 町外の成功事例

【地域みらい留学に関して知りたい】

- 留学生を受け入れるときの体制（ホームステイなのか、一人暮らしなのか）
- 地域みらい留学生の子が平取町に来た決め手
- 町外からの受け入れ体制をどの程度の規模、予算で取り組めるか
- 日本全国に向けて一体どのようにPRしているのか知りたい

- 全国募集するとき、したときのメリットデメリット
- 何を主体に募集するのか？

【小中学生へのアクションや発信】

- 中学生に魅力を感じてもらうことも必要
- 小（高学年くらい）中学生の平高に対する考えや思い
- 小中学生にもっと平高の良さを伝えてほしいです（行きたいなど思える）
- 若い世代（小中学生や親）に平取高校を伝えてほしい

【町民(主に大人)へのアクションや発信】

- 町民の人が平高のことを（良いところを）もっと知るべきだと思います
- 平取に魅力を感じているか？
- 私が平高を選んだ理由、選ばなかった理由
- 町民の「平取愛」を知りたい！
- 住民の方が高校の存在をどう思っているのか？知りたい
- より多くの人に届く情報発信の方法
- 地域の人との交流を増やしていきたい（どうすればええんや？）
- 地域の人々と関わる方法
- 町民が平取高校をどう思っているのか？（イメージ）
- 町の皆さんの高校に対する思い、期待、期待度
- 平取町にしかないもの、ことは何ですか
- 町民の人々の平取高校へのイメージ
- 町の人が高校に期待すること、望むこと、お互いにどんな連携ができるか。まち自体の魅力UPのために何をするか、できるか。

【アイヌ文化について】

- アイヌ文化を学びに県外から来た人がいるので、もっと全国にアピールするべき
- アイヌ文化推し
- 人やアイヌのこと、観光や互いに違うものだったとしてもそこに共通点があるか探していきたい

【世界と高校の関わりについて】

- 世界から平取に様々な国の人たちが来てくれる、多様性を認め合える町になるための受け入れ体制をつくりたい（カルチャーエクステンジ）
- 地域の教育資源。海外からの研究者、国内の研究者訪問者がいつやってきて、どうしたら高校生と関われるか
- 多文化、ダイバーシティ、アイヌ、交流の場…この地での3年間

【具体的なアイデア・要望等】

- 高校生と何か一緒にイベントをしたりしていろいろな話ができたらと思います

- 高校と町の交流
- 中学生（平中・振中）の卒業生数と平高への進学数の精査をして、中学生の進学意向調査をすべき
- 小・中学生との交流を増やすための時間、人手などを確保できるのか
- もっと子どもに魅力が持てることを発信してほしい
- 親よりも子どもの世代がよいと思うことをしてほしい
- 町のあらゆる人たちで一緒に考えてくれるような場づくり
- 平高生と町の人との関わりを増やしてほしい
- 高校生でのイベント参加
- 少なからず平高に対して悪い印象があるので払拭してほしい（小中学生と保護者）
- オープンキャンパスのように学校の様子、授業の様子を見てみたい（もう一度学んでみたい）
- 決める大人には新しい取り組みには道教委や町役場だけでなく別のスキル（キャリア）が必要ではないですか？（海外の事例も含め）
- アイヌ文化へ平校の方向づけをしようとしていると思うのですが、子供の将来像がいまいちイメージできない。卒業した後のことも考えていくべきだと思います
- フリースクール、学び直しの場合
- いろんな職業の人との接点→将来や社会について考えられる
- 町の人や先生たちも真剣になってどんどん生徒もやる気が出てくるのを見たいです。どこまでみんなが本気になれるか見てみたいです
- 地域みらい留学の事例いつでも共有します！
- 学び直しする場、社会人枠の新設
- 唯一無二のものがある高校

【その他】

- 大学進学も先生たちの一生懸命さも素晴らしいです
- 高校生と高齢者の関わり方
- 高校生の立場では学校生活が大事、地域との連携はその一部だと思う
- これからまちと高校のことを考えていくときには「核」となるものが必要だと思います。この「核」になるものができたときに大人が先回りせずに子どもたちの多様な考え方を大切にすべきです
- 町民の関わり方
- ネガティブなイメージをふきとばすプランとその熱量を平取町が持っていると感じられること

4. 当日の写真 【会場の様子】

